

【現症】高度の肥満体以外特に理学的所見に異常認めず。頭部は全体に薄く特に後頭部に目立つ円形脱毛症と認められた。二便正常，陽実症と診断。

【経過】両肩と後頭部に鍼治療し葛根湯エキス剤7.5g×14日投与。再診より柴胡加竜骨牡蛎湯7.5gを追加して鍼治療と併用した。葛根湯を6週間，柴胡加竜骨牡蛎湯4週間分以後中止。鍼治療のみ1-2週間隔で受診している。3ヵ月目頃から脱毛が少なくなり6ヵ月目にはほぼ正常となった。

【考察】肩凝りの自覚症状が急速に改善し，鍼の刺激が頭皮血流改善に作用し毛根部を活性化させたと思われる。漢方薬の併用が症状変化にどの程度寄与したかは今後の検討を要する。

4 牛車腎気丸が多愁訴に著効を示した高齢患者の一例

荒木 進

荒木内科医院

症例は90歳，女性。

【既往歴】慢性関節リウマチ(RA)と高血圧，胃潰瘍などでT病院よりザンタック，ペルジピン，ラシックスを投薬中。

【主訴】背部痛，腰痛，便秘，両下肢の浮腫としびれ，食欲不振

【現病歴】約6カ月前より大便で這ってトイレに行く以外はベッド上で寝たきり状態。RAによる両手指関節の変形あり，やせ形，精神状態(記憶力など)は高齢の割りに良好。BP 140/80。両足は浮腫状で冷たく，足背動脈も触れない。両足をベッド下に下げると2-3分でチアノーゼ(暗赤色)となる。

【東洋医学的所見】腹部は全体に軟弱だが圧痛なし。舌は紅で苔(-)，裂紋(+)。脈は沈，細，弱。

【経過】H13年9月8日初回往診。東洋医学的に腎虚，瘀血，水毒状態と判断し牛車腎気丸を投与。他にラニザック(H2Bloker)，ラジストミンL(降圧剤)，ルプラック(利尿剤)も併用。1ヵ

月後には両足の浮腫，背部痛，腰痛，便秘がほぼ消失し食欲もでて，著効を示した。

5 補中益気湯にて自力食事摂取可能となった一症例

中田 真司・小林 豊

ゆきぐに大和総合病院和漢診療科

症例は82歳，女性。

【現病歴】鬱病，高血圧，脳塞栓後遺症にて近医通院中。平成12年転倒を契機に寝たきりとなった。平成14年4月5日嘔吐後の発熱を主訴に誤嚥性肺炎の診断で当科第一回入院。

【経過】上部消化管内視鏡検査では逆流性食道炎を認めた。入院時より，発語も少なく，自力座位保持が不能。全介助にて嚥下食とプロトンポンプ阻害薬を開始したが，咀嚼行為に対して易疲労性で，食欲もなく，拒否的だった。間欠的に発熱と低酸素血症を繰り返したため，黄耆建中湯を試みたが無効。

5月14日誤嚥性肺炎の再燃にて入院。補中益気湯を投与したところ，自力座位可能となり，食事を自力で摂取するようになった。発語も多くなり，発熱はその後も認めていない。

【結語】補中益気湯にて精神神経活動の改善がみられるとともに，自力食事摂取可能となり，補剤を考える上で興味深い症例と考えられた。

6 華岡青洲の里を訪れて

高畑与四夫

たかはた医院

【緒言】今から198年前，漢方薬による全身麻酔を開発し乳癌手術に成功した医師が紀州の田舎にいた。平成11年春，当時の春林軒塾が現在の町の人々が中心となり復元された。演者は寄付の要請に賛同。その後完成を知る。昨年その地を訪れることが出来て医師としての業績の実際を知ることができた。青洲の手術は想像以上に広範，多数あり一部を報告する。

【方法】和歌山県立医科大学名誉教授上山英明

氏著書「華岡青洲先生その業績とひととなり」を訪れたとき入手。展示品、復元された建物を見学して医療現場の関係を確認した。

【結果】漢方薬麻酔の名は通仙散または麻沸散という。薬草は6種、蔓陀羅華、草烏頭、白芷、当帰、川芎、南星炒である。術前の体力向上として人参栄養湯、回生散、生神散などを使用。乳癌手術第一例は1804年10月13日。以後156名の記録（全例手術ではない）。北海道以外全国各地から集まっている。乳癌以外に一般外科、脳外科、眼科、顔面、口腔、頸部、皮膚科、整形外科、泌尿器科、婦人科と広く行われていた。

【考察】漢方医学のみの時代に外科手術を成功させていた事実は驚異である。術前管理、術後管理も食事と漢方薬を用いて一貫した治療体系を確立していたものと考えられた。

7 新潟県における薬草について (2)

須永 隆夫

木戸クリニック

【緒言】新潟県の各地で生薬が生産されている。生薬生産の一部を報告し、かって栽培され、野生化した佐渡おけら（ホソバオケラ）の分析結果と日常の利用法も報告する。国内での生薬生産と利用についても考えたい。

【方法、結果】生産者、保存会、薬用植物担当の町職員より聞き取り、現地見学とした。県の生薬生産担当部よりの資料を参考とした。県内の中間山地を中心に、イチヨウ、シャクヤク、トウキ、ドクダミ、ヨモギ等が生産される。江戸時代に栽培された佐渡おけらは、現在、野生化したものもあり、保存されている。新潟薬科大学での分析結果、典型的な蒼朮（ホソバオケラ）のパターンを示した。佐渡おけらは、虫よけ、カビよけ、燻蒸、茶花などの利用がある。津南で栽培のホソバオケラは、生薬として流通していない。芍薬は一部切り花として利用される。

【まとめ、考察】新潟県における生薬のいくつかの現状を追った。稀少種生薬の佐渡おけらの保存と栽培が始まっているが、生薬の流通にのってい

ない。保存、そして国内での生産と利用が進めばと思う。

II. 特別講演

1 困ったときは漢方で — カゼからガンまで

広瀬 滋之

愛知県広瀬クリニック

漢方薬は私たちの大変身近にあり、またその良さを知って普段の生活に生かすととても役に立ちます。漢方医学は約2000年前に中国で生まれ、長い歴史と経験の中でそれぞれの国の伝統医学として重んじられ、中国では中医学、韓国では韓医学、日本では漢方（医学）として発展し、今では私たちの健康増進、難病の治療にずいぶん役立っています。約25年前から、漢方薬が健康保険にも採用され、一般の医療機関でも患者さんの希望に応じて漢方治療が受けられるようになりました。

さて、私のクリニックでは、カゼ、アレルギー性鼻炎、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、虚弱体質、自律神経失調症、慢性肝炎、膠原病、関節リウマチ、ガンといった、あらゆる病気の人が漢方治療のために大勢やってきます。ところで、漢方と現代医学の違いで最も大切なことは、現代医学が細菌やウイルス、ガン細胞などの外敵を倒すことを大きな目的とし、また血圧や不整脈をコントロールするのに大勢の人に同じような治療をするのに対し、漢方は一人一人の体質を見極めながら、それぞれの状況に合わせてメニューを考え、最終的には人間が本来持っている自然治癒力（ホメオスターシス）を十分に発揮できるようにパワーアップすることを目的とした医療です。今風の言葉で言えば、人間の構造改革をしながら健康を維持し、病気に打ち勝つ力を養うことを目的としているのが漢方医学なのです。

さて、カゼには葛根湯というように、誰でもカゼに漢方薬が効きそうなことはご存知のようですが、他にも多くの漢方薬のカゼ薬があります。ところが使い方をうまくすると、カゼには漢方薬が大変威力を発揮するのです。今回は、この辺りの